

共に学び共に育つ

～関係性を紡ぐ～

■はじめに

特別支援教育を担当して16年目になりますが、様々な「他者と関わることに困り感がある子どもたち」と出会いました。そうした子どもたちが成長していく中で、「人は、人と人との関係性の中で育つ」ということを強く感じています。そんな、人と人との「関係性を紡ぐ」実践を3つ紹介します。

■名前付きの顔写真のカード

友達や先生の名前をなかなか覚えることができない子どもを担当することがありました。その子は、視覚優位な面が強かったこともあり、友達と教諭一人一人の顔写真と名前で、トランプほどの大きさのカードを作り、個別学習の中で指導しました。フラッシュカードのように見せたり、カルタや神経衰弱のように遊びを取り入れたり、毎回、飽きずに楽しめるように心掛けて指導をしました。指導を続けることで、友達の名前を覚えることができ、学級で「配り係」の活動ができるまでに成長しました。

■手作りのカレンダー

知的障害学級の子どもたちを担当した際の実践で

す。そのとき担当した学級の子どもに対し、「きっと将来もこの地域で生活していくだろう」と感じていました。そこで、子どもたちとカレンダーを作り、校長先生や地域のお店、役場に定期的に配りに行きました。こちらから挨拶をしたり、地域の人に声を掛けてもらったりと、何度も行くうちに地域の人たちに名前を覚えてもらいました。よい運動になりましたし、役場の福祉

課の方とのつながりもできました。

■行事の小道具作り

不登校傾向の子どもを担当したときには、一緒に運動会や学習発表会の小道具作りをしました。工作が好きな子どもだったので、楽しそうに作ってくれましたし、できた小道具が本番で使われて、嬉しそうでした。学級の子どもたちも、小道具がその子どもによって作られたものであることを知って、喜んでいました。

■おわりに

「他者と関わることに困り感がある子どもたち」にとって、「関係性を紡ぐ」最初の1人目は、担当教諭です。子どもの特性と将来を見据えながら、これからも人と人との関係性を大切にしたい実践をしていきたいです。

士幌町立
士幌小学校

教諭
穂山 直之

